

★ 茶 病虫害情報

病虫害防除所が実施した4月及び5月の巡回調査では、**茶のクワシロカイガラムシ**の府内全域で発生が多くなっています。

また、**チャノコカクモンハマキ**について、巡回調査では平年並の発生でしたが、宇治でのフェロモントラップへの誘殺数が多くなっており、5月第4半旬現在「平年比多い」誘殺状況となっています。

発生の目立つ茶園では、一番茶終了後、早い時期での防除が必要です。

1 クワシロカイガラムシ

(1) 発生状況

4月の発生状況(表1)および5月の発生状況(表2)とも、いずれの地域においても平年比やや多い～平年比多い発生状況となっています。地域に関係なく茶園を良く観察し、適期防除に努めてください。

表1 平成25年4月3～4半旬調査結果

地域	平年比	項目	平年比	H25	平年
山城	多い	寄生株率	多い	37.1%	16.2%
		発生ほ場率	多い	76.2%	52.3%
丹波	やや多い	寄生株率	やや多い	15.8%	8.3%
		発生ほ場率	並	66.7%	46.7%
丹後	多い	寄生株率	多い	40.0%	0.8%
		発生ほ場率	多い	100.0%	16.7%

表2 平成25年5月3～4半旬調査結果

地域	平年比	項目	平年比	H25	平年
山城	多い	寄生株率	多い	31.8%	14.6%
		発生ほ場率	やや多い	76.5%	55.2%
丹波	多い	寄生株率	多い	29.2%	9.3%
		発生ほ場率	多い	100.0%	45.0%
丹後	多い	寄生株率	多い	58.8%	0.0%
		発生ほ場率	多い	100.0%	0.0%

(2) 防除上の留意点

年間3回(一部山間部では2回)発生します。世代が進むと幼虫ふ化時期がばらつき、ふ化期間が長くなるため、早い世代での防除が効果的です。防除適期は半数ふ化卵塊(雌介殻内に産卵された卵の半数以上がふ化した状態)の比率が50%を超えた頃です。卵のふ化状況は介殻を剥がしてルーペ等で観察してください。また、薬剤散布はノズル等を選択し、株内部の枝に十分かかるように努めましょう。



図1 クワシロカイガラムシの抱卵の状態



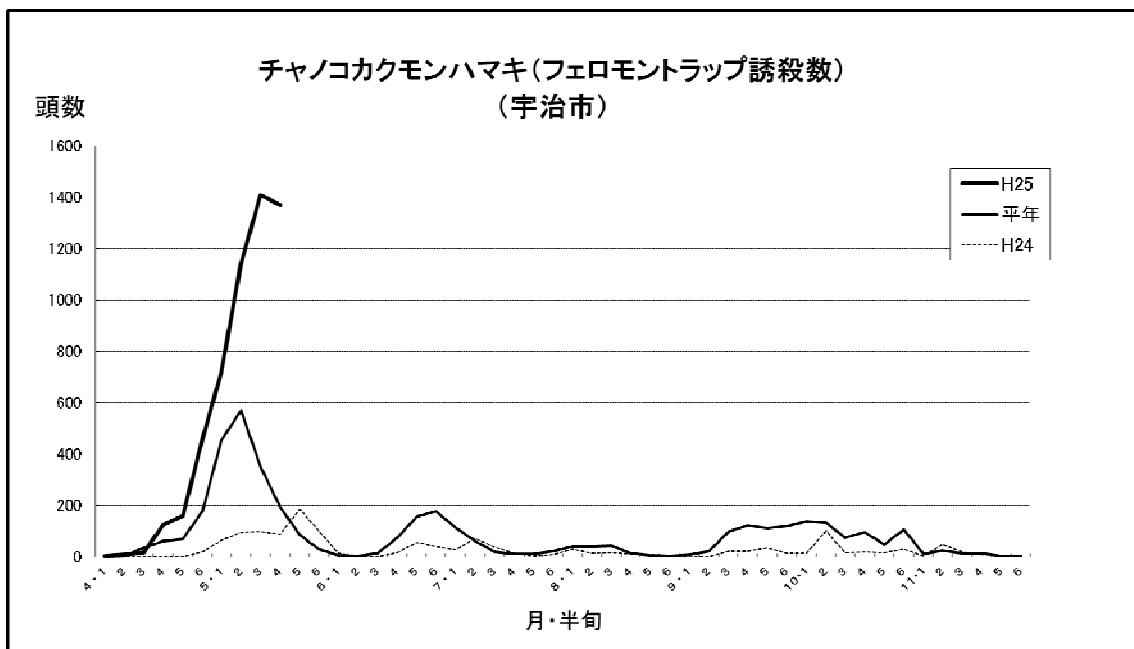
図2 クワシロカイガラムシの卵と幼虫

(写真提供 京都府農林水産技術センター農林センター茶業研究所)

2 チャノコカクモンハマキ

(1) フェロモントラップへの誘殺状況

宇治市の茶業研究所におけるチャノコカクモンハマキの誘殺状況は下図のとおりです。5月に入ってから越冬世代の誘殺が続いており、5月第4半旬現在「平年比多い」誘殺状況です。また、5月の巡回での枠調査では、綴葉等は確認されていませんが、成虫の飛翔を確認した茶園が複数ありました。



(2) 防除上の留意点

ふ化した幼虫は成長すると、葉を綴って食害するようになり、薬剤がかかりにくくなるので、ふ化直後の若齢幼虫期（成虫発生最盛期の7～10日後）の防除が効果的です。ただし、昆虫成長制御剤（IGR）は成虫発生最盛期が防除適期です。